

# IT戦略

## IT戦略の基本方針

IT（情報通信技術）が急速に進展するなか、当行ではお客さまのライフスタイルの変化に伴う多様なニーズに的確に、かつタイムリーにお応えするとともに、情報を共有化し、経営の意思決定を迅速にするなど、銀行経営の強力なサポートツールとして位置づけ、IT活用の積極的な取り組みを進めています。

## 「新基幹系システム」を稼働開始

平成20年1月、「新基幹系システム」を稼働しました。ITに求める価値を情報処理から情報活用へと発展させることを目的に、銀行業務の根幹となる勘定系システムを20年振りに更新するとともに、これまで築き上げました情報系システムを、最新技術を駆使して構築したものです。

## 新基幹系システム

堅牢なメインフレームで構築した勘定系システムで、お客さまに安心してご預金やお借り入れをしていただく機能や、全国の金融機関と連携して為替業務を行う機能、ATMやインターネットバンキングを便利にご利用いただける機能を提供しています。

勘定処理された情報はオープンな基盤で構築した情報系

システムへ素早く引き継がれ、営業活動の中で発生する多くのデータ（顧客情報、口座・契約情報、取引情報、交渉記録等）と統合・一元管理することで、営業活動の効率化やお客さまの視点での情報提供のほか、さまざまなリスクコントロールにも有効活用しています。

## 行内のネットワーク「∞（夢現）ネット」

ネットワーク社会の進展を先取りし、行内ネットワーク「∞（夢現）ネット」をいち早く整備してきました。現在、約2,700台のパソコンを接続し、多岐にわたる業務を支援しています。

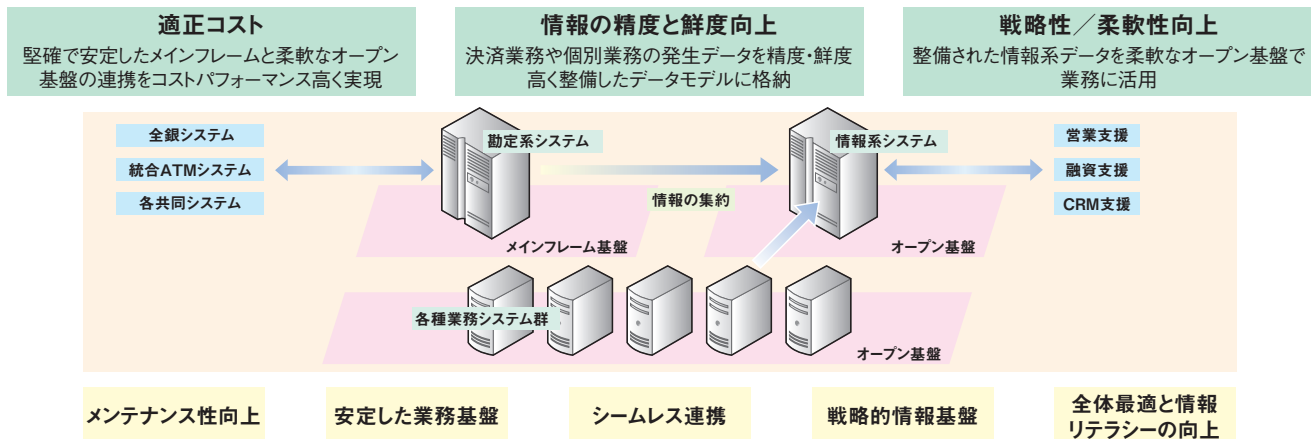
全行員のITリテラシー（利用能力）のレベルアップを図る人材育成の重要な役割も担っています。

## システムインフラの中核としての事務棟

現在の事務棟は、阪神・淡路大震災クラスの大規模地震にも耐えられる堅牢な建物です。事業継続およびシステムの安定稼働を目指すとともに、セキュリティ面でも万全を期すことで、システムの24時間、365日連続運転を可能とし、業務の多様化をサポートしています。

また環境面では、発電能力約5kWの太陽光発電設備により、年間約1.4トンのCO<sub>2</sub>の排出を削減しています。

## 基幹系システムのコンセプト



## IT活用について

当行は「IT戦略」を独自経営の柱と考え、①お客さまのニーズに的確に応える金融サービスの充実②さらなる業務の効率化とリスクの回避③経営戦略をスピーディーに実現できる柔軟で拡張性のあるシステムづくりを目標に次世代に向けた対応を積極的に進めています。

### 「高度な金融サービス」の提供

当行は保有する情報とお客さまの公開情報を活用して、今まで以上にお客さまを“熟知”し、お客さまにとってより付加価値のあるサービス（知恵と親切）を提供してまいります。

また、お客さまの利便性向上のため、ATMの365日稼働を行い、コンビニATM（セブン銀行ATM）、インターネットバンキング、モバイルバンキング、J-Debitの24時間オンラインサービス、およびキャッシュカードや通帳の24時間紛失受付を実施しています。

今後もインターネットバンキングのメニュー追加、当行ATMをご利用いただける時間の拡大、提携するコンビニATMの拡大など、利便性をより一層高めてまいります。

### 「効率的でリスク感応度の高いシステム」

お客さまに安心してご利用いただくために、営業店システムや融資支援システムなどの各種システムを有効活用し、業務の効率化とリスク管理の強化を図ってまいります。

営業店システムでは、①店頭営業力の強化②オペレーショナルリスクの軽減③営業店事務の合理化・効率化④インターネットバンキングなどとのチャネル連携を進めています。

融資支援システムでは、①与信判断の高度化②融資判断や審査のスピードアップ③格付コミュニケーション・サービスや経営改善計画のサポートなどの取り組みを進めています。

これらのシステムには処理が適切であるかを監視する業務モニタリング機能を導入し、法令違反を防止するとともに事務の堅確性を高めています。

### 戦略的に経営施策を実現するシステム

各業務をそれぞれの適切なシステム基盤で運営し、新基幹系システムでは、意思決定に必要なデータを幅広く収集・集約する仕組みを整備し、戦略的な銀行経営を実現していきます。

## IT（情報通信技術）活用の方針

